

第 14 回 FIH 男子ジュニアワールドカップ

大会最終日・12月10日に下記の4試合が行われ、最終順位が決まる。()内はU21世界ランキング。

決勝戦	ドイツ(1) vs スペイン(4)
3位決定戦	インド(2) vs アルゼンチン(3)
5位決勝戦	ベルギー(7) vs オランダ(5)
7位決定戦	フランス(6) vs ニュージーランド(12)

■9位以下の順位

9位	イングランド(16)
10位	アイルランド(22)
11位	オーストラリア(8)
12位	南アフリカ(10)
13位	マレーシア(11)
14位	日本(17)
15位	チリ(18)
16位	スイス(26)
17位	バングラデシュ(20)
18位	オーストリア(19)
19位	韓国(13)
20位	中国(33)
21位	エジプト(15)
22位	カナダ(14)
23位	ナミビア(34)
24位	オマーン(40)

■振り返り

日本とは衛生環境が大きく異なるインドで、2週間強にわたって行われた今大会は、コンディションを維持すること自体が難しい、厳しい戦いとなりました。国際大会はもとより、海外渡航そのものが初めてという選手も複数おり、環境への適応を含め、多くの挑戦が求められました。目指していた結果を残すことはできませんでしたが、若い選手たちは国際舞台を通じて、独特の大会雰囲気や高い試合強度、体調管理の難しさ、雨天時の戦い方、さらにはビデオリファールを活用など、様々な経験を積むことができたと感じています。

大会期間中、主将の川原（唯一の大学4年生）は「俺たちが日本のホッケーの未来を作る」という言葉を繰り返し仲間に伝えていました。最終戦後には、帰国後にこの経験をそれぞれの所属チームに還元していくよう、落ち着いた口調ながらも力強く呼びかけていました。上から目線にならず、行動で示していこう、と。彼の呼びかけに応じて、強い気概を持った選手がさらに多く育っていくことを期待したいと思います。

2026年のW杯、アジア大会、そして2028年のロサンゼルス五輪へと続く道の中には、若い世代の台頭が不可欠です。我々スタッフとしても、今大会で得た経験を糧に、選手たちとともに日本のホッケーの未来を切り拓いていけるよう、より一層のレベルアップを図っていかなければならないと強く感じました。

今後も精進してまいりますので、引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。